

交通遺児育英会機関紙

©平成16年10月1日発行
発行・財団法人交通遺児育英会
〒102- 東京都千代田区平河町2-6-1
0093 (電話) 0 3 (3 5 5 6) 0 7 7 1
(H P) http://www.kotsujiji.com

君とつばさ



「つどい」思いのたけ語り、デイズニー楽しむ

中部・近畿の70家族156人参加



開会式であいさつする穴吹専務理事

16年度の「高校奨学生と保護者のつどい」が8月27日から29日まで、千葉市の幕張プリンスホテルと東京デイズニーランドで開催された。...

初日は午後1時半からホテルで開会式。穴吹専務理事の歓迎あいさつに続いて、エッセイストの鈴木ひとみさんが「車椅子からの出発」と題して講演した。...

林健太郎前会長が死去



林氏は88年9月評議員になり、理事を経て、99年11月会長に就任。昨年10月健康上の理由から辞任した。...

寮「心塾」の入寮資格緩和と生活環境の改善などを進め、利用しやすい、親しみのある育英会に育て上げた。1913年、東京都生まれ。...

在の生活や直面する問題が、れにも打ち明けることができず、話し合われた。日ごろ、大きな思いや子どもの行く末について、堰せきき切ったように話した。...



英国へ初の語学研修

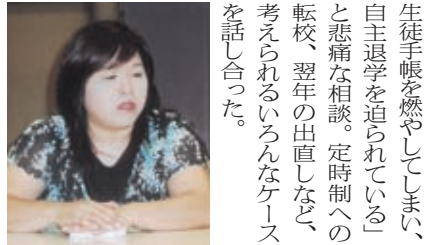
文化に触れ国際感覚養う

交通遺児育英会が今年度初めて実施した海外語学研修に、29人の高校奨学生が参加。7月25日から8月16日まで英国のソールズベリーで研修を積み、世界中から来ている若者との交流を深めて帰国した。...

一行は、現地の家庭でホームステイしながら英語学校に通うとともに、アクティビティ(課外活動)やエクスカッション(日帰り旅行)を通じて、英国の歴史や文化に触れた。...

「借りても返すのが大変」

宮城県で今年度初の相談会



16年度最初の「高校奨学生と保護者の相談会」が7月10、11の両日、仙台市青葉区で開かれ、宮城県の6家族11人が会場を訪れて本会職員と話した。...

2家族あった。3年男子の母親は「木を抜く仕事がいい」と森林組合を当たっているが、ほとんど求人がない」と嘆いた。1年男子の叔母は「仲間4、5人と拾った他校生の生徒手帳を燃やしてしまい、自主退学を迫られている」と悲痛な相談。...

台風の襲来が観測史上最多を数え、各地に大きなツメ跡を残した。本会の高奨学生と保護者の皆さんを結ぶ最大のイベント「つどい」も、16号台風の接近で気をもんだが難をまぬがれ、参加した中部・近畿地区の方々は無事日程を消化した。...

「二〇〇四年版労働経済の分析」(労働経済白書)によると、〇三年の集計で、求職もせず、通学もしない「若年無業者」が52万人もいる実態が明らかになった。フリーターの中にも、気が向いたときだけちょっとアルバイトして、あとは仕事をしない人がいる。...

胸のうちさらけ出す



講演

事故から、この夏でちょうど20年。ミス・インターナショナルの任期を終え、ファッションモデルとして甲府での撮影をすませて帰京中に、事故は起こった。中央高速道の大月を過ぎたころ。運転していたカメランが横を走るトラックと接触しそうになり、急ブレーキを踏んだ。車は横すべりし、回転。わたしは後部ガラスを突き破って投げ出され、首の骨を折った。首の骨が折れているかもし

「手術したが、首は動かさないうえ、寝返りは打てない。下半身はじくりとも動かない。見舞い客は「必ずよくなるから」と慰めたが、その言葉で、これはただ事ではない、と思った。2週間後、主治医から「君の足は動かないだろう。折れた首の骨は矯正できても、中の神経はつなぐ

『車椅子からの出発』

エッセイスト・鈴木ひとみさん

絶望的状況の中で、彼（いまの夫）の存在がどれだけ支えになったことか。そのときはまだ結婚していません。事故に遭わなかったら、3週間後に結婚した。返事は「とりあえずリハビリに打ち込んだ。病院の5階まで非常用スロープを車椅子で上がった。ジュースの空き缶を並べてスロープの練習をしたり、鉄アレイで腕も鍛えた。そのお陰で、車椅子陸上の国体や世界大会で優勝できた。いまは長く続けられる射撃に切り替えている。

障害を受け入れられたのは、彼の存在も大きい。おしゃべりな車も運転もあつた。いままでは一人で外出できず、事故現場の中央高みたい。よく見舞い客が「頑張って」というが、十分に頑張ったあとで言われると、どうしていいかわからない。「お大事に」「頑張らなさい」「お大事に」の方が気が楽になるかもしれない。言葉が見つからなかつたら「息子の大事な人は、わたしが、いい言葉があれば教えたい」と思っている。話を聞いてほしい。

鈴木さんが最後に聞いた見舞い客の「頑張って」という言葉について、鈴木さんのように違和感を持つ人もいれば、そう言われるのが普通、言われることに喜びを感じる人も、家庭や周囲の環境で受け止め方は異なるようだった。保護者グループでは「父親代わりとしての仕事を、に穴吹専務理事が「お互いに意思疎通を図り、みなさんが自立できる体制づくりを立派な社会人として送り出すために、一段の努力をお願したい」と総括した。

同じ境遇の者一同に

分科会、全体会議で本音語る

＜1日目＞

初日の舞台は、千葉市の幕張プリンスホテル。国際展示場、幕張メッセに隣接した地上50階、高さ180メートルの超高層ホテルだ。正午前、育英会職員やお手伝いの心塾生が集まり、受付、誘導などの持ち場に着く。いよいよ16年度「高校奨学生と保護者のつどい」の幕開けだ。午後1時半、開会式。穴吹俊士専務理事が「つどい」は、奨学生と保護者が一緒に旅をして対話を深めると同時に、同じ境遇にある者同士が話し合うことにより元気を取り戻してほしいとの願いを込めて、胸のうちの思いをさらけ出して語り合ってください」と、あいさつした。ことし初めて取り入れた



全体会議で分科会報告をする、右から奨学生グループの石橋健一事務局長、保護者グループの大谷禮子さん、坂口博章さん

講演は、エッセイスト鈴木ひとみさんの「車椅子からの出発」。ミス・インターナショナル準日本代表という栄光の座から、交通事故で車椅子生活を余儀なくされたが、周りの人たちにも支えられ立ち直っていく壮絶な体験談。会場はシーンとして鈴木さんの話に聞き入った。同4時から懇談会。まず奨学生、保護者ともに6つのグループに分かれて分科会を開いた。奨学生グループでは、卒業後の進路、育ててくれた人に伝えたいこと、鈴木さんの講演に対する感想などが話し合われた。卒業後の進路については、1、2年生の一部にまだ決めかねている人がいたが、大部分は自分の進む道、将来就きたい職業をしっかりと



懇談会・分科会(右上から奨学生グループA～F、左上から保護者グループA～F)

思い描いているようだった。具体的には看護師などの福祉関係や調理師、整備士、検査など資格を要する職業、専任職志向が目立った。一方で「ありがとう」とか「感謝している」と短い言葉が口に出た。その一言には万感の気持ちが込められていた。鈴木さんの講演に対しては、経済的な苦しさ、子どもが不登校、進学・就職、一家事や娘との対話に悩んでいるという父親もいた。直面している問題として「心塾」の紹介、関原舞さんら心塾生自らが説明して、長い1日を終えた。

「おとぎの世界」満喫

「ごぞい」特集



デイズニーへ一番乗り

お目当てに奨学生同士、親子で

＜2日目＞

もっとも楽しみにしていたデイズニーの日。真夏だというのにどんより曇り、一時的な雨でパレードが一時中止にはなったが、むしろかん照りよりはしのぎやすいデイズニー日和だった。

何時に行っても何時に帰ってもいいが、その代わり自己の行動には自分で責任を符を手に、早い人は午前8時を持って、というスタイルで実施した。前日配布されたパスポートと電車の往復切符を手に、早い人は午前8時に飛び込んだ。

ホットや秘密兵器などのタワーや、丸太ポートごと落差16メートルの滝つぼにダイビングする「スプラッシュ・マウンテン」など過激なアトラクションが人気。悲鳴を上げながらもスピードとスリルを味わっていた。

お母さんたちは、ハニーポットに乗って蜜蜂探しをする「フーさんのハニーハント」や「ピノキオの冒険」など旅行など、ファンタジー系のアトラクションに魅せられていた。



「奨学生を1人前に」

穴吹専務、閉会式で呼び掛け

＜3日目＞

あっという間に3日目、最終日。午前7時半からの朝食会場には、眠そうな顔をした親子連れが次々現れ、バイキング形式の食事。この「ごぞい」で知り合った奨学生やお母さんたちが、テーブルを囲んでなごやかに談笑する姿が随所に見られた。初日の開会式とは全く違う打ち解けた表情だった。9時から閉会式。穴吹専務理事が「2泊3日という短い日程だったが、きょうのデイズニーは楽しんで見られた。」



でも見えなかったか。夏休みももう終わり。進学する人も就職する人も、頑張っているところへ入ってほしい。でないと、不満が残る。これからの育英会とスクラムを組んで、奨学生が一人前になるまでともに頑張ろうとあいさつして、すべてのスケジュールを終えた。

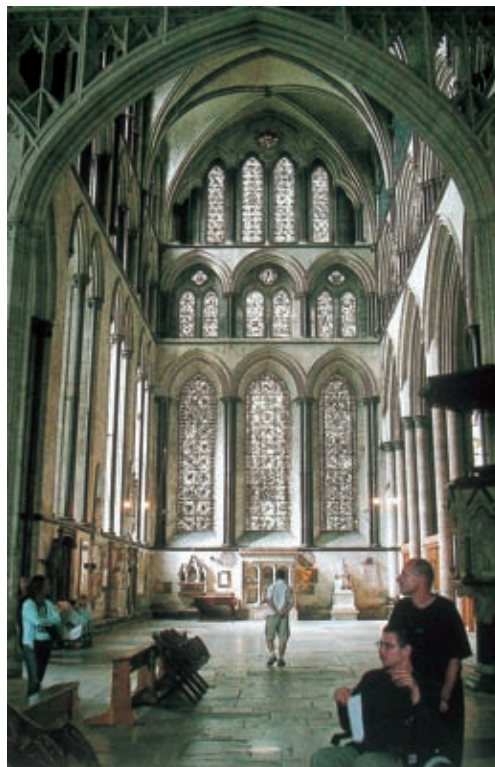
参加者たちは大きな荷物を持って、名残惜しうに帰途。この3日間知り合った友達と携帯電話の番号を知らせ合ったり、ロビーに残って話し込むなど、別れを惜しむ姿があちこちで見られた。

「語学力」に泣き笑い

海外語学研修特集



夜のアクティビティで帰りのバスをサインアップするのを忘れて、戸惑った



目を奪う精密さ ソールズベリー大聖堂

わたしはソールズベリー大聖堂を二度訪れました。初めは、その大きさと精密さに目を奪われました。イギリス一高い建物だけあって、街中のどこからでも見えていたのですが、近くで見ると本当に圧巻でした。機械もクレーンもなかった時代、このような大きな建物を人間が造ったのだと思うと、驚きでした。大ききもさることながら、内部のアーチもとても美しく、眺めていると、観光客に

わが家のような居心地 ホームステイで感激ドラマ

バスから降りてホストファミリーと対面。「ハロー」と声を掛けると、笑顔で「ハロー」と答えてくれた。そこで少し緊張がほぐれた。家まで車で5分ほど。その間に自己紹介した。マザーはとても明るい人でよく話し掛けてくれるが、わたしはあまり話せないで、質問に答えることができなかった。そんなときも、優しく笑顔で「大丈夫よ」と感じてフォローしてくれて、うれしかった。

ことがあった。結局バスには乗れなかった。家に帰った途端泣いてしまった。マザーはわたしが泣き止むまで抱いていてくれ、道に迷ったり困ったことがあったら電話してきなさいと、自分の携帯番号を渡してくれた。わたしのホストファミリー

イギリスでの一番の思い出は、自分の誕生日に行っただけです。みんなにあり感動しました。大英博物館やビッグベン、バックingham宮殿を見ることができました。わたしたちが行った日は、最高の一日になりました。

わたしは二度訪れました。初めは、その大きさと精密さに目を奪われました。イギリス一高い建物だけあって、街中のどこからでも見えていたのですが、近くで見ると本当に圧巻でした。機械もクレーンもなかった時代、このような大きな建物を人間が造ったのだと思うと、驚きでした。大ききもさることながら、内部のアーチもとても美しく、眺めていると、観光客に



英語学校で四苦八苦

「聞く」「話す」が苦手の日本人

初めて授業を受けて驚いたのは、他国の同年代の子たちの英語能力です。先生の説明を理解し、発音も上手で、すらすら話していました。自分との会話能力の差を感じ、すっかり消極的になってしまいました。日本人は書けるけど、聞き取りと話すことが極端にできないということを痛感しました。日本人としてとても恥ずかしく、英語に対して思いがりました。

授業はリスニングとスピーキングが中心。日本ではリーディングとライティングが中心なので、大変苦労しました。内容そのものは難しくないので、説明がすべて英語なので、もともとリスニングの弱い僕にとってはダブルパンチでした。最初は、何を言っているのか、全然わかりませんでした。でも日がたつにつれて少しずつ理解できるようになり、自分の意思を伝えることができるようになりました。

最終日、泣くつもりはあった。ご飯もおいしかった。洗濯もしてくれた。テレビも見させてくれた。日本で生かしているような居心地のよさでした。

最後の日、泣くつもりはあった。ご飯もおいしかった。洗濯も見させてくれた。日本で生かしているような居心地のよさでした。

映画の風景が目の前に

ロンドンで迎えた誕生日



最後の日、泣くつもりはあった。ご飯もおいしかった。洗濯も見させてくれた。日本で生かしているような居心地のよさでした。

最後に「またイングリッシュに戻ってきなさい。由香里はわたしの娘なんだから」と言ってもらえ、打ち解けていきました。そのときのうれしさと、申し訳なさ、感謝の気持ちをうまく表現できず、その夜は眠れませんでした。

最後の日、泣くつもりはあった。ご飯もおいしかった。洗濯も見させてくれた。日本で生かしているような居心地のよさでした。

最後の日、泣くつもりはあった。ご飯もおいしかった。洗濯も見させてくれた。日本で生かしているような居心地のよさでした。

ソールズベリーで感激の3週間

大聖堂前でバイオリン

本場で演奏、雰囲気を実感



ヨーロッパの雰囲気を実感する目的のひとつでした。

ヨーロッパの地を踏み、空気を吸い、「ここで数々の作曲家が生まれたんだ」と思うと、胸がいっぱいになりました。添乗員と音楽の話をしていくと「じゃあ、みんなの前で弾こうよ」ということになり、ソールズベリー大聖堂の前で弾きました。

初めは研修生だけが聞いていたのですが、どんどん増えて、曲が終わるたびに拍手をしてくれたり「ブラボー！」と言ってくれました。日本人とはやはり感じ方が違うな、と実感しました。



日本とイギリスの違い

偏見がまだ残っていて、「クラシックはお堅い」というイメージがまだあると思います。でも、ヨーロッパは違う弾いている人がたくさんいます。クラシックは国の音楽なのです。ロンドンに行っても素敵な音楽がありました。ぜひ、路上でバイオリンを弾いてほしいですね。(東京都・道下加奈恵)

に遅れてやってきます。イギリス人が時間にルーズというより、日本人が時間を話めずなのかもしれません。日本人は仕事仕事の毎日、休日でも予定をつくり慌ただしく生活しています。お金のゆとりはあっても、心のゆとり、時間のゆとりは乏しく、時間に束縛されているのではないかと感じます。

イギリスは生活を楽しむ国。今回、はつきりとした暮らしを感じました。どちらが正しいとはいえないかもしれませんが、わたしはそんな日本を思っています。イギリスは生活を楽しむり、きれいな町並み、伝統を大事にする心。どれも日本には足りないものばかりです。本当のゆとりとは何か、を感じさせる3週間だったと思います。(静岡県・杉山ゆきの)

わたしのホストファミリーは必ずぎりぎりか、時間並みを失ってしまったり、このごろ優しい人が増えてきました。先日、家のネットワークの日本選手の活躍を報じていました。いまの若い方は立派だと思います。日ごろの力を十分に出し切っているのですから。昔はな野ネコだったそうです。3匹が限界だと言っていました。宅配のおじさんも3匹いて、やはり野ネコだったとか。周りにそういう人が増えて、うれしいです。(宇都宮 K・Aさん)

あしながおじさんのお便り

この夏の東京における最高気温は39.5度、真夏日の連続日数40日、日本上空に台風7個(9月23日現在)。異常な夏を裏付けるデータですが、10月を迎えてやっと秋本番。さわやかに過ごしたいものです。

30年を迎えるまで元気で頑張る、協力できたと思っ張ります。健康に注意して勉強の秋にしてください。(堺 K・Tさん)

奨学生のみならず、就職活動も大変ですね。年金生活して送金が遅れました。申し訳ありません。(川崎 J・Sさん)

人間死ぬまで勉強、自己向上を

力がありながら、本番では敗退するというのが日本選手でした。お元気で過ごしてください。(広島 T・Sさん)

わたしは音楽高校でバイオリンを学んでいます。今、西洋音楽発祥の地、ヨーロッパの雰囲気を実感する目的のひとつでした。

わたしは音楽高校でバイオリンを学んでいます。今、西洋音楽発祥の地、ヨーロッパの雰囲気を実感する目的のひとつでした。

わたしは音楽高校でバイオリンを学んでいます。今、西洋音楽発祥の地、ヨーロッパの雰囲気を実感する目的のひとつでした。

わたしは音楽高校でバイオリンを学んでいます。今、西洋音楽発祥の地、ヨーロッパの雰囲気を実感する目的のひとつでした。

わたしは音楽高校でバイオリンを学んでいます。今、西洋音楽発祥の地、ヨーロッパの雰囲気を実感する目的のひとつでした。



心塾が初のキャンプ

ファイヤー囲み、わいわい

心塾初のサマーキャンプが8月24、25日、山梨県の国際自然大学校日野春キャンプ場で行われた。参加したのは、塾生21人と職員、講師の計26人。前日までの雨も上がり、キャンプ名「葉月会」と書かれた揃いのオリジナルTシャツを着て出発、約4時間かけて到着した。川遊びをし、夕方には全員で食事の準備。メニューはバーベキュー。わいわい言いながら河原で食べる夕食は、たまらなくおいしかった。(文と写真・溝口貴枝)



ひとこと

英国で日本との文化や習俗の相違を見てきた。そして日本のよさに気づき、それを伸ばし、世界一の国にしたいと思った。(長崎・濱脇一馬)

ソールズベリー語学研修に参加した29人は、みんな仲良く、困ったときは助け合える仲間だと思う。一生懸命思い出した。(茨城・高野幸恵)

イギリスで世界中の人と出会って、一緒に笑ったり泣いたり、本当に楽しかった。(東京・道下加奈恵)

数々の名所に行ったけれど、やっぱりロンドンがよかった。東京の物質的な感じと違い、どこか情緒的で温かみがある街並みでした。(静岡・菅井崇志)

3週間の経験が、これから人生にとってすごく役立つことばかり。イギリスに行った貴重な経験と28人に会えたことに感謝。(和歌山・藤沢真紀)

3週間いろいろなことがあったが、行ってよかった。この研修を通して、自分が大きく変わりました。(福岡・斉藤憲生)

話すことの難しさを痛感しました。実際に会話の中にある英語は、学校で教わる英語とは全く別のもので、自分が大きく変わりました。(滋賀・西川真未)

イギリスへ行って最も心に残ったことは、あらゆる土地での壮大な自然です。日本とは違ったスケールに、自分が大きく変わりました。(香川・新見千尋)

一言で言う「本当に楽しかった」。今回の研修に参加できてとてもよかった。この経験が僕の人生をいろいろなことを学んで、自分が大きくなりました。(京都・松本航)

緑がいっぱいの町でした。壮大な自然に囲まれて、自分自身が成長できた。特に価値観が、英語以上に今後の自分自身に影響を与えたい。(北海道・山田あゆみ)

親元を離れ見知らぬ国、人の中で生活したことで、僕自身成長できた。特に価値観が、英語以上に今後の自分自身に影響を与えたい。(東京・山口果)

英語を通して皆さんの人と触れ合えたことが自信につながり、みんなに感謝の気持ちでいっぱいです。(東京・谷口正子)

3週間、毎日を快適に、楽しく過ごさせてくれたホームステイ先の家族の方々の笑顔、優しさ、温かさを忘れることはできない。(鳥取・井田蘭)

ひと回り大きくなった。28人にも出会えてよかった。豊かで、一人ひとりに心のゆとりと優しさがあふれていたからです。(愛知・山田純平)

時間のゆとり。大切なことを見つけた。もっともっといろいろな文化を吸収して、素敵な大人になりたい。(静岡・杉山ゆきの)

先輩

お元気ですか

小学校教諭 川上揮聖さん

〔略歴〕
 北海道三石町生まれ。静内高校を経て、85年北海道教育大教育学部卒。翌年北伏小学校教諭。今年度初めて専科担当として、高学年の社会、図工、理科を教える。42歳。



子どもとのかかわり重視 「やればやった分だけ返る」

全国の競争馬の80%を生産している北海道日高地方で、1世紀にわたって名馬を育ててきた優駿(ゆうしゅん)のふるさと、浦河町。見渡す限り牧場が広がるこの町は、目を海に転じれば、日高コンブをはじめとする漁業の町でもある。海に山にゆったりとした時間が流れ、心安らぐ自然がそこにある。

この町で「子どもとかかわっているのが楽しい」というのが、小学校教諭の川上さん。

隣の三石町生まれ。父親清栄さんが地元の教育委員会に勤めていたのと、叔父が教師だった影響を受け、父が教師だった影響を受け、「高校時代にはもう進むべき道を決めていた」という根っからの教師志望だった。弟も教師だから、さしずめ「教育一族」といっていいだろう。

叔父から教師の喜びと楽しさ、函館での大学生生活の話や、同じ北海道教育大へ。また青函連絡船があったところで、思い出深い光景として(まぶた)に焼き付いている。85年に卒業したが、教員採用試験に失敗。1年間家庭教師をして翌年、所期の目的を果たした。初任地は襟裳岬に近い似小小学校。児童数600人という比較的規模の大きい学校だった。北海道では、新規採用者は4年で転任することになっているが、希

担当の目から子どもたちを見て、大人同士以上のものを得ることもある。

教師の資質とは、と大上段に振りかぶるわけではなく「子どもを育てていく気持ちが大仕事」という姿勢で子どもに接している。だが、それが至難の業でないことは、川上さんが一番よく知っている。「教えることは楽しい。しかし、難しい」という言葉にそれが表れている。

とにかく、子どもとのかかわりを重んじる。そのため、教職歴15年で教頭試験の受験資格ができるが、いまのところ「受ける気はない」とか。「管理職は、学校をどう運営するかに目が向きがち。子どもとかかわりを持つ時間はほとんどない」というのが、避避する理由である。

いまや都会、地方を問わず社会問題化している低年齢児の重大事件。だが「この地域の子は落ち着きがあり、素直な子が多い。一般にいわれているような事件に気を遣うことはない」とか。おらかな自然環境がそういう子どもたちを育てているのだろうか。

専科担当を設けるのは、学校の裁量権でできる。だが「常に子どもとかかわりたい」という川上さんにとってはやや不満ではある。川上さんは、浦河町で、この春まで教師をしていたふゆみ夫人と長女重里紗さん(中一)二女奈々美ちゃん(小一)との4人暮らし。

望して7年いた。「大きい学校なので、大きい学校でできることを勉強して立場が変わりはないことを強調する。」

これまでどちらかといえば高学年の担当が多かったが、1年生や低学年を受け小学校へ。19年で3校目というから、腰を落着けて子どもたちと向き合ってきたことになる。

荻伏小学校は児童数12人、各学年1クラス、20人前後の小規模校。「確かにやりやすいところはあるが、意外

根本は子ども好きというのが自己分析。「同じ子が毎日変わる。だから、やればやった分だけ子どもに返っていく。純粋な目でものを見ることのできるようになり、大人同士以上のものを得ることもある。」

教師の資質とは、と大上段に振りかぶるわけではなく「子どもを育てていく気持ちが大仕事」という姿勢で子どもに接している。だが、それが至難の業でないことは、川上さんが一番よく知っている。「教えることは楽しい。しかし、難しい」という言葉にそれが表れている。

とにかく、子どもとのかかわりを重んじる。そのため、教職歴15年で教頭試験の受験資格ができるが、いまのところ「受ける気はない」とか。「管理職は、学校をどう運営するかに目が向きがち。子どもとかかわりを持つ時間はほとんどない」というのが、避避する理由である。

いまや都会、地方を問わず社会問題化している低年齢児の重大事件。だが「この地域の子は落ち着きがあり、素直な子が多い。一般にいわれているような事件に気を遣うことはない」とか。おらかな自然環境がそういう子どもたちを育てているのだろうか。

専科担当を設けるのは、学校の裁量権でできる。だが「常に子どもとかかわりたい」という川上さんにとってはやや不満ではある。川上さんは、浦河町で、この春まで教師をしていたふゆみ夫人と長女重里紗さん(中一)二女奈々美ちゃん(小一)との4人暮らし。

医療業界ではコンピューター化が急速に進展し、電子カルテ管理や他の病院とのカルテ共用が薦められていきます。医療の現場では、これらに速やかに対応できる専門知識と、コンピューター技術のダブルライセンスを持った人材が求められています。

今回のインタビューは、医療事務のスペシャリストをを目指す奨学生・樽川唯さんです。

医療事務を志すきっかけは、

中学生のころ病院に行き、受付の方に優しくしていただいたのが強く印象に残って、大きくなったらい「こんなお仕事をしたい」と思いました。

高校もその道の学校を選んだ。

＊はい、医療事務にはコンピュータを使うだろうと思って、情報系のある須賀川高校を選び、オフィス情報科で学びました。

医療業界ではコンピューター化が急速に進展し、電子カルテ管理や他の病院とのカルテ共用が薦められていきます。医療の現場では、これらに速やかに対応できる専門知識と、コンピューター技術のダブルライセンスを持った人材が求められています。

今回のインタビューは、医療事務のスペシャリストをを目指す奨学生・樽川唯さんです。

医療事務を志すきっかけは、

中学生のころ病院に行き、受付の方に優しくしていただいたのが強く印象に残って、大きくなったらい「こんなお仕事をしたい」と思いました。

高校もその道の学校を選んだ。

＊はい、医療事務にはコンピュータを使うだろうと思って、情報系のある須賀川高校を選び、オフィス情報科で学びました。



インタビュー

わが道

国際情報工科専門学校 2年 樽川 唯さん

(聞き手・本紙編集長)

医療関係の専門学校は入学が厳しいようですが、電子カルテ管理や他の病院とのカルテ共用が薦められていきます。医療の現場では、これらに速やかに対応できる専門知識と、コンピューター技術のダブルライセンスを持った人材が求められています。

今回のインタビューは、医療事務のスペシャリストをを目指す奨学生・樽川唯さんです。

医療事務を志すきっかけは、

中学生のころ病院に行き、受付の方に優しくしていただいたのが強く印象に残って、大きくなったらい「こんなお仕事をしたい」と思いました。

高校もその道の学校を選んだ。

＊はい、医療事務にはコンピュータを使うだろうと思って、情報系のある須賀川高校を選び、オフィス情報科で学びました。

先生方はどんな感じですか。

＊みんなあまり年が離れたなくて、頼りになる、お姉さん、みたくていいです。

1年次にした勉強は、

＊医療事務を学び、病院の受付・カルテ管理技術を習得しました。

2年次に

＊夏休みまでに医療事務管理士特別講義と診療報酬請求事務特別講義が終わり、これから基礎医学、医療関連法規を学び、インターネット、医療事務

コンピュータ、データベースの実習をします。このほか手話も習います。

1学校外での実習もありますか。

＊夏休み明けに、東京の病院へ3日ほど実習に行きます。楽しみです。

1認定試験で資格を取ったものと、挑戦しているものは。

＊合格した認定試験は、医療事務管理士技能、サーティファイのシニアド技術者、ウィンドーズ操作技術、マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト「エクスセル、ワード」。試験の結果待ちだが、診療報酬請求事務能力。挑戦中、国家試験の経済産業省の初級システムアドミニストラータ

1先生方はどんな感じですか。

＊みんなあまり年が離れたなくて、頼りになる、お姉さん、みたくていいです。

1年次にした勉強は、

＊医療事務を学び、病院の受付・カルテ管理技術を習得しました。

2年次に

＊夏休みまでに医療事務管理士特別講義と診療報酬請求事務特別講義が終わり、これから基礎医学、医療関連法規を学び、インターネット、医療事務

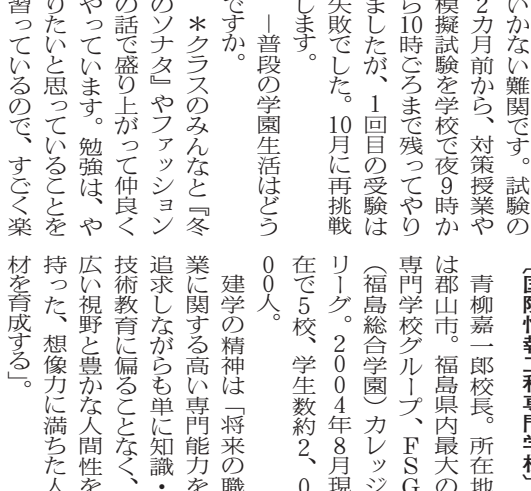
全国的合格率が30%以下で、試験の2カ月前から、対策授業や模擬試験を学校で夜9時から10時ごろまで残ってやり、1回目の受験は失敗でした。10月に再挑戦します。

1普段の学園生活はどうですか。

＊クラスのみんなと『冬のソナタ』やファッションの話で盛り上がりつつ仲良くやっています。勉強は、やりたいと思っていることを習っているの、すごく楽

青柳嘉一郎校長。所在地は郡山市。福島県内最大の専門学校グループ、FSG(福島総合学園)カレッジリーグ。2004年8月現在で5校、学生数約2,000人。

建学の精神は「将来の職業に関する高い専門能力を追求しながらも単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、想像力に満ちた人材を育成する。」





十和田市は、幕末のころ荒れた台地を、新渡戸稲造（先駆的な国際人）の祖父ら新渡戸家三代の人々が開拓した町。奨学生のお母さん・矢部桂子さん（52）はこの町で高校生らに学食を調理して提供していた。

お母さんただいま奮闘中

十和田市 矢部 桂子さん

朝からじりじりと暑い東京を後にして『はやて』白鳥』を乗り継ぎ、約3時間半で三沢駅に着いた。ここから、車窓に黄金色の稲穂や夏草が迫る十和田観光電鉄に揺られ20数分で終点の十和田市駅に到着した。八甲田山の裾野に広がる

高校生らのエネルギー源 学食作りに情熱燃やす

北国の夏休みは短い。お母さんが学食を作っている青森県立三本木高校（米田省三校長）もこの日、夏休みが明けて二学期が始まり、朝から校内には元気な若者の声が弾んでいた。学生食堂『薫風会館』は、学校の一番奥まった場所にあり、『日の出食堂』（小関通子社長）から派遣され



鳥のカリット揚げを添え「定食」完成

真心込めて包丁握る 獅子奮迅の5時間半

8月23日午前9時前、お母さんら6人が学生食堂の調理場（約165平方メートル）に集まった。頭に三角巾をかぶり、白の上下作業衣、カップエプロン、白の長靴で身を整えている。一日の始まりは朝のあいさつから。気合いが入った声が通路に響く。



本日のメニュー、準備OK



6人でチームワーク、調理場は時間との戦い

「おいしい」に感激 平凡に暮らせればよい

食堂の窓からは二抱えもあるカラマツやキササギ、ユリの大木が見え、いい雰

口で「おいしかった」「ありがとうごさいました」と言

3姉妹が夢だったお酒 あの日から苦くなったお酒

お母さんには今、仕事で力貸してくれる仲間がいる。彼は三沢基地の中にあるスパー『カミサリ』の営業部で働いていたが、時々来るようになり、みんなと秋田の田沢湖へドライブに行ったりした。ある日、彼が愛を打ち明けて二人は結婚して専業主婦になったお母さんは、友達と一緒に

お母さんは、友達と一緒に

お母さんは、明日のメニューと冷凍庫の食材を点検、担当者に指示を出す。このあと食券販売機のお金の精算、両替用の



おいしい学食、会話も弾む（昼食風景の一部）

お母さんは、明日のメニューと冷凍庫の食材を点検、担当者に指示を出す。このあと食券販売機のお金の精算、両替用の

お母さんは、明日のメニューと冷凍庫の食材を点検、担当者に指示を出す。このあと食券販売機のお金の精算、両替用の

お母さんは、明日のメニューと冷凍庫の食材を点検、担当者に指示を出す。このあと食券販売機のお金の精算、両替用の

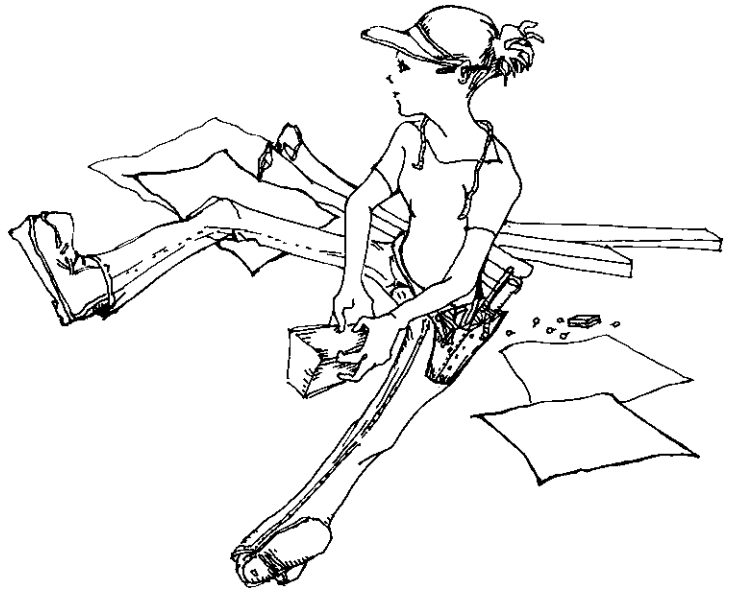
お母さんは、明日のメニューと冷凍庫の食材を点検、担当者に指示を出す。このあと食券販売機のお金の精算、両替用の

お母さんは、明日のメニューと冷凍庫の食材を点検、担当者に指示を出す。このあと食券販売機のお金の精算、両替用の

お母さんは、明日のメニューと冷凍庫の食材を点検、担当者に指示を出す。このあと食券販売機のお金の精算、両替用の

奨学生のコーナー

長尾谷高校（大阪）3年 溝口 薫



創形美術学校3年 三橋綾子さんの作品

私は高校を卒業したあと横浜にある大学に進学したい。大学に行けたら、留学したい。これは中学の時から夢だった。
私は映画と音楽が好きなので、できればアメリカに行って、映画の関係の仕事

クリエイティブな仕事

を学んだり、体でいろんなものを感じ取りたい。
そして日本に帰って来て大学を卒業したら、クリエイティブな仕事をしたい。
自分の好きなことができてるなら、今まで生きてきて感じたことや学んだことを活かせる仕事がいい。

燃える青春



秋の気配が漂いはじめた笹尾の森。JR鹿兒島本線折尾駅から徒歩数分で行き着くこの森を背に、4階建ての白亜の校舎『パターンホール』が建っていた。
キリストの教えを土台として、心豊かな若者の育成を目指している折尾愛真高校の看護科の生徒らが学んでいる校舎だ。
9月2日、看護科の華道部を訪ね、顧問の福澤恵美子先生にあいさつしたあ



前田先生の指導にうなづく中村さん

も人気の高い『龍生派』。華道部の部員は16人。月2回ペースで生け花の練習をしているが、この日は2学期最初の部活で、2年生の5人が参加した。
午後4時、前田先生は花材のソケイ、リンドウ、バラ、ドラセナの葉を机の上に並べた。そして「きょうはこの生け方を学びましょう」と言って「草の基本花形（本勝手）のプリントを渡した。そこには日本語と英文で、役枝の真・副（そえ）・体の生け方が図解入りで説明してあった。
初めに先生は、ソケイの枝を手にして、「この枝が持つ個性姿を見て、どの枝が一番『真』にふさわしいかを選んでください。そして2回ペースで生け花の練習をしているが、この日は2学期最初の部活で、2年生の5人が参加した。」

部活動拝見 華道部員

折尾愛真高校（福岡）2年

中村 里美さん (17)



作品完成、感動の瞬間

「バラをこう向けると自分と向き合う」と、先生が次々に指摘してほんの少し手を添える。すると、生け花が鮮やかな表情を見せた。熱心に部活に取り組んでいる中村さんは、3歳のとき父を交通事故で亡くし、母の手で姉、妹とともに育てられた。ぜんそくの発作に悩まされたが、今春元気に、部の先輩や仲間と楽しく部活に励んでいる。
きょうの部活について、「久しぶりの部活で、最初はうまくいかなかったが、先生に教えてもらってうまくいった。体のバラが思い通りに上手に生けられた」と満足そうに話す。
中村さんが華道部に入った動機は「尊敬している母と同じ看護師になり、お花ができる奥さんになれたらすてきななあと考えた」。



中根 晃（元実践女子大学教授）

児童・生徒が関連する不幸な事件が起こるたびに心の教育はどうなっているのかという声が聞かれる。しかし、校長が全生徒を集めて、いのちの大切さを教える、それで自殺者の周辺の生徒の動揺を鎮めたり、担任教師を自責感の淵（ふち）から救い出すことはできない。
自殺はうつ病ないしうつ状態にあるとされる。気持ちが沈んで何事も暗く見えて、大学入試も合格ラインから無限に遠くなくなってしまっていること自体が辛い（つら）いので、たとえ辛い病は身体病、身体病の活力がひたひたに低下する病気なので、その人の

学校、いのちの教育

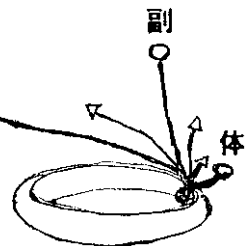
なげればならないのは本人の内面と職場内であれば、ある人は自分の言動がいけなかったと自分を責め、あなけられたことを想い浮かべて冥福を祈ることが大切である。動揺の強い何人かの生徒には担任が話を聞いて、社会科で人間の偉大さを知ることによって学ぶものであっても、不幸な事件の時に教えるものではないであらう。

シリーズ 心の病気

(32)

うつ病は身体病、身体病の活力がひたひたに低下する病気なので、その人の

心掛けとは無関係である。今ではよく効く抗うつ薬もある。彼の辛い気持ちを聞きながら、本人のせいではないのではないことを伝え、専門家の所へ行って夜眠れる薬、うつ状態に効く薬を処方してもらおうように勧めたい。
自殺が一つ起こるとその周辺の多くの人を動揺させ、複雑な反応を起させる。



真・副の生け方を学びましょう」と言って「草の基本花形（本勝手）のプリントを渡した。そこには日本語と英文で、役枝の真・副（そえ）・体の生け方が図解入りで説明してあった。
初めに先生は、ソケイの枝を手にして、「この枝が持つ個性姿を見て、どの枝が一番『真』にふさわしいかを選んでください。そして2回ペースで生け花の練習をしているが、この日は2学期最初の部活で、2年生の5人が参加した。」



役枝のソケイを選ぶ部員たち

突然、先生が「あれ、基本に忘れてる人がいますよ。バラは必ず水盤の水のいい香りのするピンクのバラを添え、最後にドラセナの葉を生けて作品が見事に完成した。
生け終わった中村里美さんが大きな声で「お願いします」と先生に告げた。先生は「中村さんが生けたお花の中で一番威張っているのは『中村さん』は人の気持ちがかかると優しい人です」といふ。
秋の文化祭に華道部は、3年生がフラワーアレンジメント、2年生は盛花を出す。中村さんは、日本の伝統文化生け花で、家族や大勢の参観者に感動してもらいたいと、出品に向けて情熱を燃やしている。